

令和7年度 高校生海外研修派遣事業



<日程>

令和 7(2025)年 7 月 21 日(月)~28(月)

<派遣者>

内田 優、江口 心都、大久保 友葵、加納 瞳、小林 あみ、篠原 有梨沙
春藤 心美、高木 悠花、高橋 琴、戸田 隼誠、名子平 来夢、宮口 真奈(50 音順)

<随行者>

平野 由紀、日野 美紀子

<構成>

- ・カリキュラム
- ・グループレポート(A 班:1,2 日目、B 班:3,4 日目、C 班:5,7 日目)
- ・個人レポート(6 日目)



船橋市国際交流協会

Short-Term Program for Funabashi International Relations Association
Summer 2025 - Funabashi High School Program

	7/21/2025	7/22/2025	7/23/2025	7/24/2025	7/25/2025	7/26/2025	7/27/2025			
	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun			
	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5	Day 6	Day 7			
8:00	Arrival@SFO 11:00AM UA838	Drop off 9:00AM	Drop off 9:00AM	Drop off 9:00AM	Drop off 9:00AM	Spend time with host family	Drop off 8:00AM			
9:00		9:00-10:00 @SF-127 Welcome Communication Class (Daily English)	*9:30 take Univ. shuttle from RAW stop 10:00AM- Visit to City Hall Meet the Mayor	10-11:30AM Japanese American History Museum	9:00-10:30AM Silicon Valley Mindset Dr. Glen Taylor		Bus to SFO			
10:00		Bus to Tesla	Visit to Hayward Public Library		10:45AM-12:15PM Communication Class (American Idioms)					
11:00		11:00-12:00 Tesla Factory Tour	12:00-1:00PM Lunch @Food Truck		2:00-2:30PM *take Univ. shuttle from BART Sta.		12:00-2:00PM Stanford University (Lunch)	2:30-3:30PM Google Visitor Experience	2:00-3:15PM Communication Class (Presentation Skills)	
12:00	Lunch@In-N-Out (Daly City)			12:00-1:00PM Conversation Circle						12:15-1:30PM Lunch @PK
13:00	1:30-2:00PM Golden Gate Bridge			2:00-3:30 Hitachi						2:30-3:30PM Campus Tour Shopping at Bookstore
14:00										
15:00	2:30-3:30PM Pier 39							Depart@SFO 11:55AM UA837		
16:00										
17:00	Pick Up 5:00PM	Pick Up 5:00PM	Pick Up 5:00PM	Pick Up 5:00PM	Pick Up 5:00PM					

2025年度 高校生 短期留学プログラム スケジュール

	7月21日(月)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
8:00	17:25 NRT発 ↓ UA838便 11:00 SFO着	ホームステイ宅 (朝食含む)	ホームステイ宅 (朝食含む)	ホームステイ宅 (朝食含む)	ホームステイ宅 (朝食含む)	ホームステイ宅 (朝食含む)	ホームステイ宅 (朝食含む)
9:00		英会話授業 (日常会話)	ハイワード市長表敬 図書館 訪問 (専用バスで移動)	日系アメリカ人 博物館 訪問 (専用バスで移動)	特別授業 (シリコンバレー)	ホストファミリー と交流	専用バスにて 空港へ
10:00		専用バスにて テスラへ			英会話授業 (慣用句)		11:55 SFO発 ↓ UA837便 14:30+1 NRT着
11:00		テスラ工場見学					
12:00	専用バスにて サンフランシスコへ	ピクニックエリアで 昼食(キッチンカー)	英会話サークル (ハイワード図書館)	スタンフォード大学 訪問 (キャンパスで昼食)	キャンパスで昼食 現地学生と交流		
13:00	In-N-Out(デー リーシティ)で昼食	専用バスにて 日立へ	図書館で昼食		英会話授業 (プレゼン能力)		
14:00	ゴールデンゲートブ リッジ、ピア39訪問	日立訪問	専用バスにて キャンパスへ	Google訪問 (専用バスで移動)			
15:00			キャンパスツアー				
16:00	専用バスにて キャンパスへ	専用バスにて キャンパスへ	特別授業 (ダイバーシティ)		ホームステイ宅 (夕食含む)	ホームステイ宅 (夕食含む)	
17:00	ホストファミリー と対面、交流	ホームステイ宅 (夕食含む)	ホームステイ宅 (夕食含む)	ホームステイ宅 (夕食含む)	ホームステイ宅 (夕食含む)	ホームステイ宅 (夕食含む)	

ハイワード海外研修 | 日目

1 成田空港出発

今日はいよいよ出発の日。アメリカでの楽しみに胸を膨らませながらも、名残惜しい様子で家族と別れ、出発しました。



2 サンフランシスコ観光

アメリカに着いてサンフランシスコを観光し、ゴールデンゲートブリッジと



PIER39に行きました。また、途中のハンバーガー屋さんで初めて注文をしてアメリカの人と接することができました。初めてのことで頼み方がわからず戸惑いしましたがお店の方が優しく対応してくれてなんとか自分たちで英語で注文をすることができました。

←サンフランシスコのゴールデンブリッジあいにくの雨でした。

3 ホストファミリーとの対面

その後、ホストファミリーと面会をしました。みんなは自分達を迎えてくれるファミリーがどんな人たちなのか、会えるのを楽しみにしながらも緊張している様子でした。

私も最初は何を話せばいいのか分からず、緊張していましたが、一緒に夕食を取る中でホストファミリーが私たちについて興味津々でたくさん話しかけてくれたので、日本の生活などの話をしたり、持って行ったお土産の説明をしたりして、コミュニケーションをとることができました。

私はアメリカの人とたくさんコミュニケーションを取りたいと出発する前から強く思っていたので、1日目からたくさん話すことができてうれしかったです。

ヘイワード海外研修 2 日目

I Conversation Class

2 日目の午前カリフォルニア州立大学イーストベイ校でカンバセーションクラスがあり、イーストベイ校の国際交流課の先生から授業を受けました。アメリカに来てまだ 2 日目で 1 番最初の授業でもあったのでみんな緊張した様子でした。



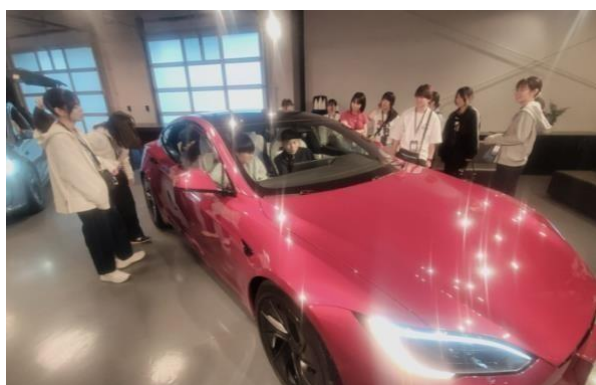
授業では自分の学校や趣味などを短いスピーチにしてみんなの前で自己紹介をしました。各々自分の言葉で普段の生活や趣味などをまとめ、話を膨らませて発表することができました。

。

2 Tesla Factory Tour



私たちは 2 日目の午前、Tesla に行きました。Gary Freunda さんと合流し、入り口で首に掛ける Tesla のカードをもらい、入場を待っている間に現地の方による説明を聞きました。



入場をして一番目最初に目に入ってくるのは”Fremont Factory”のマーク。赤と青が際立っていました。奥では社員の方々が黙々と仕事をしており、どこに工場があるのかと疑問に思いながらも進んでいくと、さらに奥に巨大な工場が潜んでいました。

とても広大でお話によるとディズニーランドが何十個も入るそうです。驚きますね。

見学する際にはある乗り物に乗りました。それは台車にテスラ製と思われる座席が装備されており、一番前の操縦席から係の方が操作すると蛇のように長くつながっている後ろの台車が続々と動いていきます。座席は 20 個以上あり初めての体験でした。椅子もとても座り心地がよく、アメリカ到着から 2 日目時差ボケに悩まされていた私たちは夢の中へ落ちてしまいそうでした。この乗り物に乗りながら聞く工場説明はすべて英語でした。私たちのほかにも観光客の方がいたので、英語は速く、また工場ならではの言葉も出てきたためとても難しかったです。一つの車を製造するには本当に様々な工程を経ていました。



初めに小さい部品から作られ、それが組み合わさって、どんどん完成品に近づいていきます。この工場では完成までの過程をすべて見学することができたので非常に興味を持ってみる事が出来ました。やはり大型機械が行っているところも多かったですが、例えば機械の監視や車製造において細かくて機械ができない部分は人が作業を行っていました。ほとんどすべてが機械で行われていると思っていたので驚きました。

工場見学が終わるとtesla車を販売しているところに行きました。ここではteslaに乗ることができます。車の中にはタブレットがおいてあり、そこでエアコンの調節をするなどタッチ一個で様々なことができ、未来の車を見た心地でした。また、ほとんどがEVでとても進んでいると感じました。初めての体験でteslaに乗ることはとてもわくわくしました。

teslaの工場見学をした後は工場の前にあるキッチンボックスでそれぞれ好きなものを買って食べました。おいしかったです。



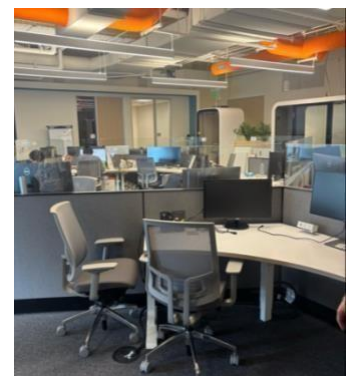
3 日立訪問

午後には、日立ビルの中にあるグローバルロジックのオフィスを訪問しました。個人的に日本のを担う大企業の一角である日立が価値を見出した会社ということから、事前の学習やインターネットの情報だけでは知り得ない、その業態や実際の雰囲気にも興味が湧き今回の訪問を心待ちにしています。

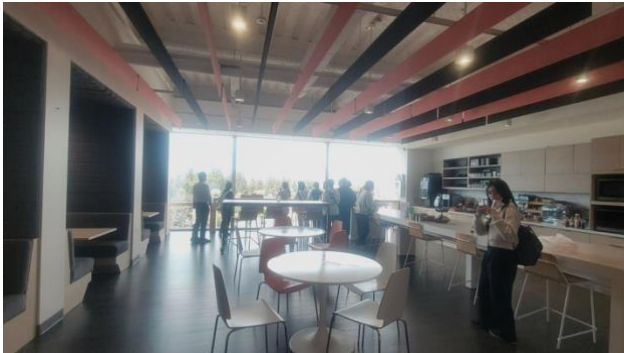
今回の訪問での内容は主に以下の2つです。

① オフィス紹介

はじめに、社員兼船橋ヘイワード姉妹都市委員長の原谷さんと鎌倉さんという方がオフィスの案内をして下さいました。



入ってすぐの作業スペースでは、デスクが一般的な島型ではなくハニカム型に配置されていました。話によると、社員間でコミュニケーションを取りやすくし、アイデアを広げやすくするための工夫だそうです。



また、奥にはカフェテリアがあり、様々なお菓子や飲み物が置いてありました。ただ食事を摂るだけではなく、社員の交流・気分転換の場として提供しているそうです。ごく僅かな滞在時間ではありましたが、確かに日当たりの良い洗練された空間でとても居心地が良かったです。

② 鎌倉さんによる講義

次に、鎌倉さんが「英語力 0 からのグローバルキャリアの構築」というテーマの基、自身の経歴に会社・社会の沿革を準えつつ、自身の経験に事前に回答していた私達の希望進路を絡めた講義をして下さいました。



具体的には、大学卒業後決して英語力の高いとは言えなかったエンジニア時代から、現在 MBA を取得しプロダクトマネージャーとして勤務するに至った経緯や海外勤務についての概要、仕事と MBA を取得するにあたって勉強を両立するための時間の使い方といったたくさんの興味深い話を聞くことができました。

何事においても、「今持っているかどうか」でなく「これから持てるかどうか」という未来志向を軸として、好奇心を原動力にストイックに努力し、挑戦し続ける鎌倉さんのキャリアはまさに人の持つ無限の可能性を体現したものだと感じました。

今度の研修に参加していた私達の中には、将来的に海外進学や就職を希望している人が多く、海外でのキャリア構築において語学はあくまでも基盤にすぎない。その上に積むもの、強みは自分で獲得する必要があるということを教えてくれた鎌倉さんの講義は非常に参考になりました。



講義の後はお土産に現地もブランドとコラボした日立的ロゴが入ったリュックや水筒、ノートを頂き、最後はエントランスで全員で写真を撮りました。

文責：1 班 内田優 江口心都 加納瞳 春藤心美

B 班 報告レポート

高木悠花・大久保友葵・小林あみ・篠原有梨沙

■3 日目

Editor：大久保

○市庁訪問

- ・3 日目の最初はヘイワード市の市庁「HAYWARD CITY HALL」を訪れ、お話を伺いました。築 20 年のこの市庁は、以前起こった地震被害の教訓を生かして耐震構造に優れており、地下駐車場等を見学しながらその対策について学びました。
- ・また、ヘイワード市は「アートの街」としても有名だそうです。プロジェクト当初は落書き防止を目的として絵を飾ったり描いたりしていたものの、やがてそれが市全体のアイデンティティとして広まっていきました。
- ・特に印象的だったのは、ヘイワード市の市議会議員の人数です。その数なんと「7 人」。2025 年現在の船橋市の市議会議員は「49 人」。それが「普通」だと思って過ごしていたのでその少なさにとても衝撃を受けました。その日ホームステイ先に帰ってからホストマザーとこのことについて話したのですが、彼女は「アメリカの市議会議員は人数が少ない分、一人一人がその市についてよく考えてくれる」と言っていました。どれくらい的人数が丁度良いのか、難しい問題です。



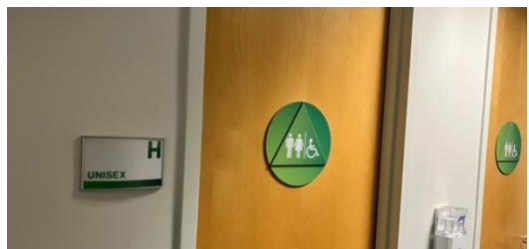
HAYWARD CITY HALL



市庁内の芸術作品



7 人の市議会議員



ジェンダーレスのトイレ

○市長表敬

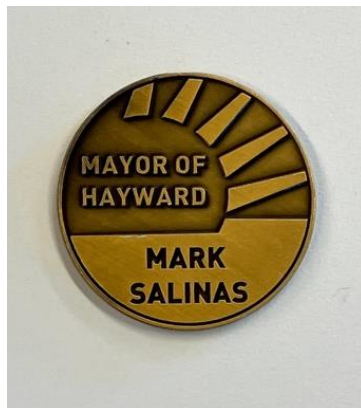
- ・市庁見学の後、その足で議場見学・市長表敬を行いました。いらっしゃった市長と少しお話をした後、お土産として日本の漆塗りのスマホスタンドをお渡ししました。渡すときに市長に一言英語で伝えたのですが、この言葉はその日の行きの車でホストファミリーと一緒に考えたものです。「一応考えといたら？」と言ってくれたホストマザー、本当にありがとうございました。助かりました。
- ・また、市長から（おそらくスマホスタンドのお礼として）メダルを頂きました。渡し方に慣習があり、握手をした手の中でメダルを受け取る、というものでした。市の警察や消防のトップ等、もらえる人はごく限られているそうです。大切に保管します。



議場での集合写真 with 市長



市長とのツーショット



いただいたメダル①



いただいたメダル②

○公共図書館訪問

- ・次に向かったのは市営図書館「HAYWARD LIBRARY」です。2019 年開館の新しい図書館で、館内の全ての電力を太陽光発電でまかなっているそうです。
- ・とにかく「広い」というのが第一印象でした。吹き抜けの構造と、木のあたたかくて優しい色が、図書館全体を開放的にしていました。「TEEN HOMEWORK CENTER」という

13 歳から 18 歳までしか入れない部屋や、「MAKER SPACE」という 3D プリンター等を使用できる部屋、といった特徴的な施設が多く設けられていました。

- ・他にも、「円周率がひたすら書いてあるガラスの壁」「週 4 でボランティアが子どもたちに勉強を教える部屋」「子どもたちが遊ぶちょっとした遊具」「延滞すると自動的にお金が払われる設定の本貸し出し機」等、魅力的な設備が盛り沢山。例の「アート」も図書館の様々なところで展示されていました。



図書館へ行く前に立ち寄った公園（平和面でも環境的でも大切な公園だそうです）



円周率の壁



いただいたバッグと集合写真



特殊な貸し出し機

○英会話サークル

- ・見学の後は、図書館内で定期的に行われている英会話サークルに参加させていただきました。筆者の班は、「生徒 1 人・地域の方 3 人・船橋市職員の方 1 人」という構成で、始まる前は「上手く話せるだろうか…」と不安でしたが、杞憂に終わりました。3 人はそのサークル全体で見ても非常に積極的な方々で、とても話しやすかったです。トークテーマは「アート」。部活動で行っている書道のことも交えながら、約 40 分間英語を使って会話をしました。
- ・個人的に、7 日間で最も充実した時間のうちの 1 つです。本当に豊かな時間でした。名前をお聞きし忘れたことが悔やまれます。



英会話サークルでの一コマ



筆者の班のメンバーと集合写真

Editor：小林

○昼食

私たちはランチを図書館で食べた。トマトスープとパンと、サンドウィッチだった。サンドウィッチはサブウェイのような感じのサンドウィッチですごく美味しかった。

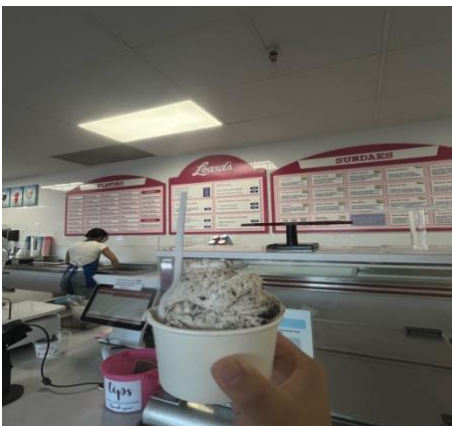


そこからバスに乗って移動してイーストベイ校に着いて、ショップでショッピングをした。パーカーとか帽子とか教科書が売っていたが、私はパーカーを一着買った。ものすごい気に入ったのでそこから結構な頻度で来ていた。他の人も色々買っていてみんな楽しそうだった。



その後に教室に移動して、多様性の授業を受けた。equality や equity の違いなどとても難しかったが、理解できるように頑張った。ホストファミリーが迎えにきて帰る時に、ホストファミリーの家が少し高い位置にあるのだが、それより少し高い見晴らしがいいところに連れて行ってもらって、綺麗な景色を見せてもらった。海も見えて、隣町も、橋もいろんなものが一望できてすごく綺麗だった。

その日の夜ご飯はホストファミリーにアメリカの料理が食べたいと言ったら、あるご飯屋さんに連れて行ってもらった。その前の日の時のご飯は、量が多くて悩んでいたのので1番小さいサイズのを聞いてお肉料理を頼んだ。そしたらファミレスでよく食べるようなサイズが出てきて食べ切ることができた。飲み物もマクドナルドの L サイズより少し大きいくらいが通常サイズでびっくりした。その後にアイス屋さんに行った。内装がバービーの映画に出てきそうなピンクでハートの椅子などが置いてあってものすごく可愛かった。前に食べたクッキーアンドクリームを食べたかったのでまたそこで頼んだ。ものすごく美味しかった。



■4 日目

Editor：高木

○日系アメリカ人博物館

4 日目はまず初めに、サンノゼ市内のジャパントウンにある日系アメリカ人博物館を訪れました。白砂利や岩のある庭園、格子窓など、日本らしさを感じさせる外観が印象的でした。

館内には、多くの日本人移民と日系アメリカ人に関する写真や実際に使われていた家具、生活用品が展示されていました。この博物館はボランティアの協力によって支えられており、展示されている農具などは寄付されたものなどということです。



日系アメリカ博物館の外観



館内の様子



実際に使用されていた農具

ここでは、明治維新後に日本人がアメリカに移住してから、日本人移民や日系アメリカ人が歩んできた歴史について学びました。差別を受けたり、強制収容されたりした厳しい状況の中でも、工夫を凝らして少しでも快適に暮らそうとした日系アメリカ人の姿勢が心に残りました。

また、現代のサンノゼ市やヘイワード市における歴史の継承についても学びました。現在アメリカにはジャパントウンが3つありますが、その中で唯一サンノゼのジャパントウンはこの負の歴史を忘れないために、商業化をせずに昔ながらの雰囲気を残しているそうです。さらに、ヘイワード市庁舎の近くにある日本人移民や日系人が収容所に向かうバスに乗せられた場所には、慰霊碑やこれらの歴史について記されたパネルが設置されており、地元住民が歴史の風化を防ぐために取り組んでいることが分かりました。

私はここで初めて日系人について深く学びました。次世代の担い手として、ここでの学びを忘れずに行動していく責任があると感じました。自分自身もこのような負の歴史を風化させないために、特に日本に関わる歴史について語り継いでいきたいと思います。グローバル化が進む現代の国際社会において、同じ歴史を繰り返さないためにも、偏見や差別なく他国の文化を尊重し、また自国の文化も尊重してもらえるようになるべきだと思います。そのために、ここでの学びを自分事として捉え、世界にはどんな国や文化があるのか知見を深め、尊重していきたいと思っています。

○スタンフォード大学

日系アメリカ人博物館での学習を終え、バスで 30 分ほど離れたところにあるスタンフォード大学へ向かいました。世界にその名を轟かせる超名門大学とあって、キャンパスがとても広く、その大きさは東京ディズニーリゾートの面積の約 6 倍にもなるそうです。そのため、キャンパス内を自転車や車で移動している学生もいました。



さらに、キャンパス内には立派な教会があり、中を見学することができました。この日は雲一つない快晴で、鮮やかなステンドグラスや天井からは陽の光が差し込んでいて、教会内は厳かなながらも暖かい空気で包まれていました。他にも細かい彫刻や、壁や天井に描かれた絵がとても美しく、圧倒されました。

その後フードコートに移動し、昼食をとりました。ここには Subway や Starbucks など有名チェーン店が複数入っており、私はアメリカで有名なチェーン店の Wetzels Pretzels でアーモンドプレッツェルを購入しました。日本ではあまり身近ではない食べ物ですが、アメリカではとても人気なようで、スーパーマーケットなどでも手軽なスナックとしてたくさん販売されていました。



昼食後はブックストアでお土産を購入しました。スタンフォード大学のキャラクターやロゴ入りのグッズが多数販売されていました。私は大学名の入ったタンブラーを購入し、帰国後も愛用しています。

OGoogle Visitor Experience

スタンフォード大学でランチと買い物を済ませバスに乗ってシリコンバレーに向かい、Google 本社近くにある「Google Visitor Experience」を訪れました。この施設は、実際のオフィスエリアとは別に Google が一般の人たちに向けて開放しているものです。ここでは Google のカルチャーを感じられるだけでなく、「Google Store」やカフェでのショッピングなども楽しめ、誰もが楽しめる場所だと感じました。



到着してから最初に入ったのは「Google Store」です。建物の外観はとてもシンプルで清潔感がありました。Google のロゴがあるだけで、「本当に来たんだ」実感がわきました。建物の周りには緑が多く、自然と調和したデザインになっているのも印象的でした。

店内に入ると、Google のロゴ入りグッズやアンドロイドキャラクターのぬいぐるみ、カラフルな文房具、T シャツ、トートバッグなどのオリジナルの商品が並んでいて、どれも思わず手に取りたくなるようなデザインでした。お土産として買いたくなるようなものばかりで、実際に私もいくつが購入しました。Google が単なる IT 企業ではなく、カルチャーとして人々の生活の中に根づいていることを感じました。商品だけでなく、店内のインテリアも明るく開放的で、来場者に親しみやすい雰囲気をつくっていました。



建物の外に出るとカラフルな自転車が並んでいました。青・赤・黄・緑といった Google カラーで塗られており、遊び心と実用性の両方を感じさせるデザインで、とても目を引きました。この自転車が社内の自由なカルチャーを象徴しているのではないかと思います。自転車は一般の人でも乗ることができ、実際に自転車に乗って「Google Visitor Experience」のまわりにあるアートを楽しんでいるメンバーもいました。特に印象的だったのが、建物の外に設置されていた Google カラーの大きなプロペラ型のオブジェで、ここでも遊び心を感じました。



敷地内のカフェにも立ち寄りました。このカフェも「Google Store」と似たような白を基調にした明るい外観で、誰でも入りやすい雰囲気でした。観光客だけでなく、実際に働いていると思われる人もドリンクを楽しんでいて、「働く場所でありながら、心地よく過ごせる空間」づくりの工夫が感じられました。

カフェの中は落ち着いた雰囲気、ドリンクや軽食が販売されていました。また、店員さんもフレンドリーで、私のつたない英語にも丁寧に対応してくれて落ち着いて購入することができました。私は期間限定のイチゴとドラゴンフルーツのジュースをオーダーしました。暑い日だったこともあり冷たく甘酸っぱいドリンクがとてもおいしく感じました。



Day 5

7/25/2025



イーストベイ校最終日午前中には、「Silicon Valley Mindset」、「Communication Class(American Idioms)」についての2つの講義を受けました。先生方は、例え話に私たちの名前を使ったり、積極的に話を振ってくれたりしてくれて私たちが飽きずに授業に参加できるよう工夫して下さいました。

授業は一コマ90分で、普段45分の授業を受けてる私からすると倍の時間でかなり長く感じられました。ですが、一コマめの授業は日本の高校では受けられないであろう、シリコンバレーに関連したAIやロボットの話聞いたため時間は本当にあっという間に過ぎ去ったように感じました。また、2コマの授業では実際に会話で使えるイディオム(熟語)をいくつか教えて頂きました。例として、What's up?や他3個の言葉の成り立ちや、時間があっという間に過ぎることをTime fliesとネイティブの人は言うのだと先生は仰っていました。Time fliesは、帰国後洋画を見たときに実際に会話で使われていて、実用性のある知識を得ることができて良かったと思いました。また、授業間の休み時間に、私とルームメイトの子とホストファミリーと一緒に作ったクッキーを持っていき、みんなで食べたことが思い出として印象に残っています！みんなが喜んでくれて良かったです。



学食でご飯を食べた後、Closing Ceremonyが行われ、私たちと5日間一緒に行動をしてくれたテジャン先生とのお別れの時間が来ました。優しくて、沢山お喋りしてくれた分お別れするのが悲しかったけれど、来年日本を訪れる予定があるそうなのでもし機会があればまた会いたかったです。左の写真は最後にイーストベイの文字の前でテジャン先生が撮ってくれたものです。

12:15～1:30PM

Lunch @PK

現地の学生と交流しながら昼食をとりました。好きなスポーツの話や、アニメの話で盛り上がりました。アメリカでの年が近い人とのコミュニケーションが初めてだったので、とても良い経験になりました。アメリカのお菓子をたくさん持ってきてくれたので、みんなでシェアしました。私達も日本から持ってきたお菓子などをプレゼントしたら、とても喜んでくれました。昼食後に少し時間があつたので、一緒にバレーボールをしました。バレー経験者も未経験者もいましたが、みんなで楽しむことができました。



2:00～3:15PM

Communication Class

この授業では、アメリカでの思い出について話し合いました。まず、これまで全員で行ったところについて、振り返り、その後、それぞれの1番の思い出について、ポストカードを作成しました。みんなで行った場所について描いた人もいれば、ホストファミリーとの思い出について描いている人もいました。完成したら、それぞれが作成したポストカードについて、短いスピーチをしました。



スピーチの後、Closing Ceremony でのプレゼンテーションに向けた準備をしました。テジョンが用意してくれた例を参考にして、各自で原稿を書きました。原稿が完成したら、2人1組でプレゼンの練習をしました。テジョンがプレゼンのコツを教えてくださいました。

3:30~4:45PM

Closing Ceremony

Closing Ceremony には、今までお世話になった方々が来てくれました。最初に1人ずつ今回のプログラムについてのプレゼンをしました。またアメリカに来たいと言っている人が多かったです。修了証書を貰った後、お世話になった方々それぞれからコメントを貰いました。私たちの今後について、アドバイスや応援する言葉をたくさん頂いたことが印象に残っています。その後、ユリさんから、カリフォルニア州立大学イーストベイ校についての話を聞きました。世界中の国からの留学生がとても多く、私たちが高校卒業後に進学する方法についても知ることができました。最後に、みんなで修了証書を持って写真撮影をしました。お世話になった方々とお別れはとても寂しかったですが、また会おうと言ってくれたのが嬉しかったです。



(高橋 琴)

7日目戸田隼誠

朝ご飯は、ホストファミリーの家で食べて昼とおやつ、夜、朝ご飯を飛行機で食べました。



その他にも飲み物の配布などもありとても充実していました。

映画も種類が豊富で楽しかったです。

Day 7 July 27

飛行機の中✈

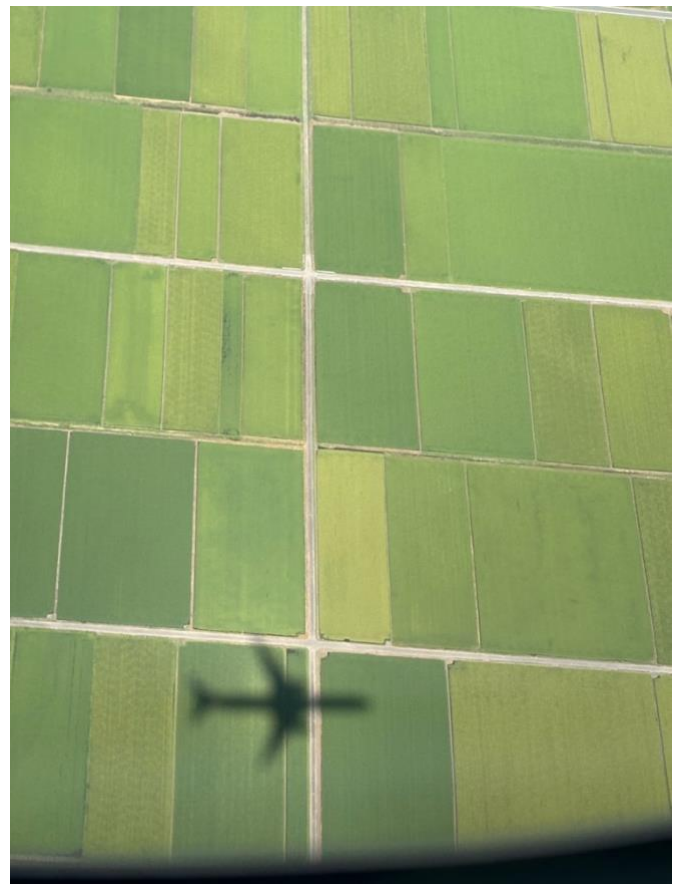


飛行機のカーテンを開けて窓の外を覗くと、雪を被ったとても綺麗な山々が見えました

空と周りの海の青色に山の緑が映えていてとても美しかったです

空港まであと少しになったところで、とてもたくさんの田んぼが視界に入りました

上空から見るとアメリカと日本の大地の大きさの差がよくわかりました



■ 6日目 7/27 ホストファミリーとの1日

○フェリービルディング

まず向かったのは、サンフランシスコの玄関口であるフェリービルディングです。ここにはフェリー乗り場に加え、土産物店やレストランなどがあり、家族連れでとても賑わっていました。さらに、この日はファーマーズマーケットが開催されていて、新鮮な野菜や果物がたくさん販売されていました。一部のブースでは試食や品種の人気投票が行われていました。



また、この施設の外には時計台があり、その前を路面電車が走っていました。正午には日本の学校のチャイムと同じメロディーの鐘が鳴り、周辺にいた多くの人が注目していました。

ホストファミリー宅やイーストベイ周辺など、今回訪れた多くの場所は低層の建物が多かったのに対し、ここダウントOWNには高層ビルが林立していましたが、自然と共存しているのが素敵だと思いました。

○チャイナタウン

次に訪れたのはチャイナタウンです。色鮮やかな建物が立ち並び、多くの観光客で賑わっていました。中華料理屋や土産物店、雑貨屋など様々なお店があり、その中にはチャイナタウンにも関わらず、日本料理屋もありました。

ここは人気観光地であるものの、良心的な価格設定の店が多い印象で、円安の中でもあまり価格を気にせずに買い物を楽しむことができました。



○ゴールデンゲートブリッジ

次に向かったのは、サンフランシスコの象徴とも言える、ゴールデンゲートブリッジです。初日にも訪れましたが、悪天候でよく見えなかったので再度連れて行っていただきました。実際に橋を渡ることもでき、その立派な姿に圧倒されました。また、到着時は曇っていましたが、徐々に晴れてきて、橋を渡った後には青空に良く映える真っ赤なゴールデンゲートブリッジを見ることができました。



この日のサンフランシスコの最高気温は 20 度ほどで、かなり気温が低いのに加えて、海風の影響で体が冷えたため、ホストファザーにホットチョコレートをごちそうになりました。

ホストファミリーと過ごした一週間はかけがえのない時間でした。英語で上手く話すことができなくても私の思いを汲み取り、文法や発音の訂正をしてくださったため、積極的に英語を話すことができました。ホストファミリーとの日常会話が最も英語力向上に繋がったと感じました。

また日本を代表する伝統文化である茶道を紹介することができました。持参した茶器でお点前を体験してもらい、喜んでもらえました。ホストファミリーとの会話やホームステイを通してお互いの国の良さを伝えあうことができ、交流ができたことをうれしく思います。

6 日目 名子平 來夢

Day2 July 26

ゴールデンゲートブリッジ



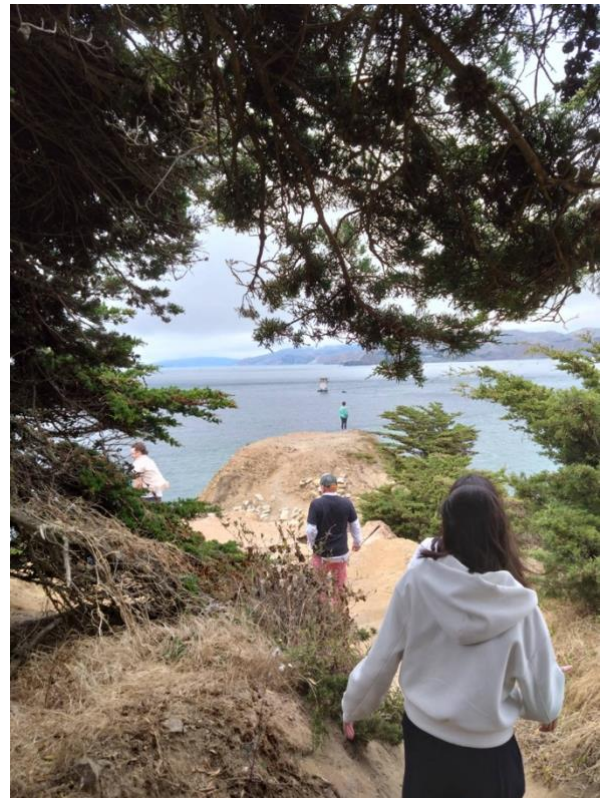
1 日目にもゴールデンゲートブリッジ
に行ったのですが、霧が濃くあまり綺麗
に見ることが出来なかったのでホス
トファミリーがもう一度連れて行って
くれました

この日は、空が晴れていて視界も良か
ったのでとても綺麗にはっきり見るこ
とが出来ました

途中まで車で連れて行ってもらって、そこからは少
し険しい道を歩きました ハイキングみたいで楽し
かったです

道の途中にゴルフ場がありホストファザーがゴルフ
をしていました

ボールをととても遠くまで飛ばしていました





てっぺんまで登ると目の前に海が広がりました

とても青くて日本よりも綺麗な海でした

波打つ力が強くて白波が立っていました

岩の上に黒い影がたくさん見えたので、アシカがいるのかと思いましたけど正体は休憩中の渡り鳥でした

渡り鳥達は綺麗に整列をして目の前を飛んで行きました

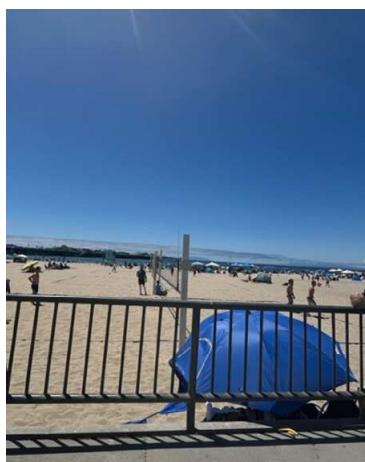
最後の夜ご飯🍗

ホストファミリーとの最後の食事は照り焼きチキンとカツでした 私たちのためにホストファミリーが日本食を作っているお店で買ってきてくれました

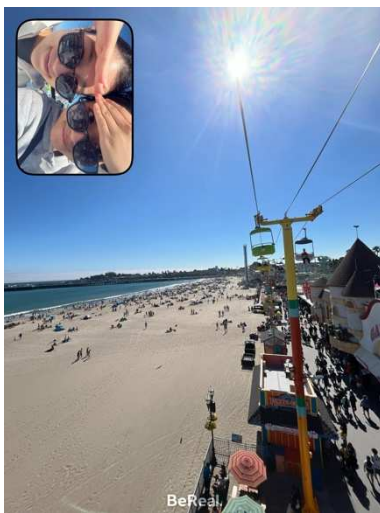


ホストファミリーは日本食を食べる時、醤油やソースにマスタードやケチャップ、チリソースを混ぜて食べていてとてもアメリカンでした

6日目 この日はホストファミリーと一日行動しました。朝起きて、まず最初にホストファミリーのアンティークショップに連れてってもらいました。そこから好きなものを持っていいよと言われたのでネックレスをもらいました。そしてまたそこから車で2時間のところに海があって、その遊園地に連れてってもらいました。天気はこの日はちょうど晴れてて、すごく心地いい気温でした。最初に何かもわからずならばされたら、そこがジェットコースターの列だと知って、めちゃくちゃ怖かったです。見れば見るほど怖くなってほんとに無理って言ってリタイアしました笑。ですが、今少しだけ乗らなかったこと後悔しています笑。外から見た遊園地は洋画でよく見るカラフルな感じの遊園地ですごく可愛かったです。たくさんショップもあって楽しかったです。

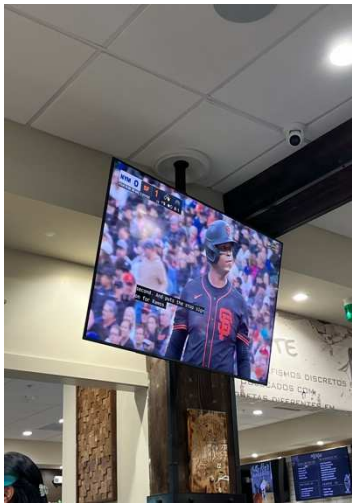


その日のお昼はそこで有名なアメリカンドッグを食べさせてもらって、ものすごく大きくてびっくりしました。そして大好きなピザも食べました。私たちはアメリカで食べたアイスがものすごく美味しかったので、アイスを食べさせてもらいました。



ビーチが一望できるリフトのようなものに乗ったのですが、風が強くて涼しくて、景色も見れて最高でした。

その日の夜ご飯はチキンを食べました。量を恐れて子供用のセットにしましたが、結局多かったです。テレビには野球の試合が映ってて、その地域で野球が有名なのを知りました。



6 日 目

6 日目はホストファミリーと 1 日過ごす日で、サンタクルーズ・ビーチ・ボート・

ウォークという浜辺に面した遊園地に遊びに行きました。

日差しがとても強かったですが、日本とは違いカラッとしていたので上着を着ていて

ちょうどいいくらいでした。

ビーチではたくさんの人がサーフィンをしたり、ビーチバレーをしていました。

遊園地にはジェットコースターやゴーカー、観覧車など様々なアトラクションが

あり、休日だったのもあって子供から大人までたくさんの人で賑わってきました。



リフトからの景色



多くの人で賑わっていました

ファザーに強く勧められて、苦手なジェットコースターに挑戦しました。列に並んでもファザーが前後の人に気さくに話しかけていて、日本とアメリカの文化の違いを感じました。

到着するのが遅かったため、その他はリフトしか乗れませんでした。お土産を買ったり、ご飯を食べたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。

また、帰りの車の中でファザーとブラザーがと横を走っている車のドライバーに話しかけたり、乗っている犬に向かって吠えたりしていてアメリカではこんなこともあるのかととてもびっくりしました。

最後の夜ご飯は一店舗しかないハンバーガー屋さんでサンドイッチを食べ、一日を通して楽しい思い出を作ることができました。



夕飯に食べたサンドイッチ



アメリカンドッグ 日本の1.5倍くらいありました

ヘイワード海外研修 6 日目

江口さんと私は今回の 6 日間、Robert & Yvette Clupny さん宅でホームステイさせていただきました。

プログラムでは 6 日目はホストファミリーとの交流となっていたのですが、ホストシスターの結婚式準備のため、私たちは他の研修生とそのホストファミリーと過ごしました。

私のレポートでは、主にお世話になったホストファミリーでの最後のアクティビティに（5 日目晩）について書きたいと思います。

5 日目晩

この日は、夕食の後ジャズコンサートを見にダウンタウンへ行きました。初日に「down town」（都市・地域の中心部）を地名だと勘違いしていて、ホストマザーに笑われたのも良い思い出です。まだ英語に耳も慣れておらず、今となってみると同じことを繰り返し聞いてしまっていたなと思います。それにも関わらず、ホストマザーは簡単な英語で私たちの理解度を都度確認しながら、懇切丁寧に答えてくれました。

ジャズコンサートの自体の規模はそこまで大きい方ではないとは聞いていたのですが、なにせアメリカでは大抵のものの基準となる規模が大きいので、そのコンサートも周辺に立ち並ぶ出店も相まって、かなり賑わっており、車を止めるのにも一苦労でした。

話は変わってしまいましたが、交通インフラは私がこの滞在中に特に印象に残っているものの 1 つです。私たちが滞在した地域は交通量こそ多かったのですが、平均して 5 車線と、その分道路も十分に広がっていました。ブロックが赤く塗られている所以外は路上駐



車しても良いとなっており、日本と大きく異なっていました。

コンサート会場に行く途中で、ホストマザーがアイスクリームをご馳走してくれました。ハンバーガーと並んだアメリカの食文化の代表格として食べてみたい、友人が食べていて美味しそうだったと話していたことを覚えていてくれた様です。私たちに先立って会計を済ませてウインクをくれ、アメリカ人の気さくさと寛容さを感じるとともに、ホストファミリーとの思い出として強く残る場面でした。

コンサート会場は案の定凄く賑わっていて、傍から辛うじて見る事ができるほどでした。聞いたことのない曲がほとんどだったけれど、どれも素敵な曲だったし、何よりもこれをきっかけにホストファミリーとたくさん話すことができてよかったです。

コンサート会場から車へ戻る途中に、ダウンタウンのお店や街並みを見て歩きました。イタリアをはじめとする様々な国の伝統料理や雑貨屋と、様々なお店が並んでいました。アメリカの下町を彷彿とさせるネオンの看板も見られ、程よく賑わいつつ品のある、洗練された街という印象を受けました。



なんの変哲もない線路ですが、自分はスタンバイミーという映画が好きで、アメリカということで、思わず写真を撮ってしまいました。



ホストマザーお気に入り。

「Roshambo」（アメリカ一部地域で使われるじゃんけんの呼び名）が表されている、遊び心のある像。

ダウンタウンとジャズコンサートを訪れた後、その脚で、ホストマザーの Yvette さんが働いている小学校を外から見せてくれました。普段の仕事についてや、アメリカでの学生の生活について等様々なことを教えてくれました。

ホストファミリーと過ごした6日間はあっという間でしたが、本当にたくさんのことを経験させていただきました。そして、この滞在を通して、私は自分の意見を明示することの大切さを身をもって感じました。初めは、ずうずうしくなってしまうのか、迷惑ではないかと思ってしまう部分もありましたが、ホストファミリーは私たちが行きたいと言ったところ、やってみたいと言ったことを快く、一通り全て体験させてくださいました。今回のプログラムに参加できて、このホストファミリーと過ごせて本当に良かったです。

文責：東葛飾高等学校2年春藤心美

6 日目

江口心都

私のホストファミリーは家の用事があったため、私とルームメイトであるここみは他のホストファミリーと一緒に過ごしました。最初に LAKE CHABOT MARINA という湖に行きました。とても自然豊かなところで犬や子供を連れたファミリーがたくさんいました。他にもバーベキューを行うところがあり誕生日パーティーを開いている人たちもいました。私たちは中心あたりにある湖で 40 分ほどのボート漕ぎをしました。これはオールなどで漕ぐものではなく自転車のように足で漕ぎます。とても体力を必要としましたが、素晴らしい景色に囲まれて水の上に浮かぶのは気持ちがよかったです。2 人ずつ漕ぐので往路と復路で漕ぐのを交代しました。しかし、交代の際水に落ちるのが怖かったため浅瀬に行って席を変えたところ、浅すぎて船が陸に乗り上げてしまい動かなくなってしまいました。やっとのことで脱出することができましたが、危うく emergency call をするところでした。その後 Akemi というお寿司屋さんに行きました。私たちに付き添ってくれたホストマザーは出身がニュージーランドあたりだったので生の魚も食べるそうです。ただ普通アメリカ人は食べないようでした。お寿司は少しいいお値段がしましたが、カリフォルニアロールのようなものもあり、とても美味しかったです。醤油にも色々な種類がありました。お酢入りのものがありましたが違いはわからなかったです。お腹を満たした後は私が 1 番楽しみにしていたピックルボールというスポーツと一緒にやりました。ピックルボールはテニスと卓球を組み合わせたようなスポーツです。アメリカでは一般的なスポーツで、公園には無料で誰でも使えるコートがいくつもあり、たくさんの人がピックルボールを楽しんでいました。私はあまり運動が得意ではないですが、そんな私でも簡単にできました。ホストマザー vs 私たち 2 人で戦いましたが、ホストマザーがとても強かったので一点も取ることができませんでした。ただとてもレフレッシュできて良い経験になりました。この 1 日を通して様々なことを経験することができました。ありがとうございました。



個人レポート 6 日目(ホストファミリーとの 1 日)

大久保友葵

○タイムスケジュール

- ・ 10:20～10:40 : Blaze の散歩 @近所 … I
- ・ 11:00～12:00 : 移動①
- ・ 12:00～12:20 : 散歩 @海岸
- ・ 12:20～12:50 : 移動②
- ・ 12:50～14:00 : サンフランシスコ内観光 … II
- ・ 14:00～14:20 : 移動③
- ・ 14:20～15:20 : 昼食&観光 @サンフランシスコ・プレシディオ … III
- ・ 15:20～15:45 : 移動④
- ・ 15:45～16:15 : ケーブルカーミュージアム
- ・ 16:15～17:30 : 移動⑤ (ケーブルカー乗車・市街散策) … IV
- ・ 17:30～21:00 : 野球観戦 @ORACLE PARK … V

I. お散歩 with Blaze

- ・ ホストファミリーの家では「Blaze」という犬と、「Ash」「Amber」という猫が暮らしています。朝少し時間ができたので、Blaze と隼誠とで近所を散歩しにいきました。ホストファミリーは誰もついてこなかったのが責任重大です。
- ・ 今まで移動はほとんど車だったので、近所をじっくり見て回ったのはこれが最初で最後でした。一つ一つの家が広く自然も豊かで、散歩中に近隣の住民の方に話しかけられることもあり、あたたかな住宅街だなと感じました。
- ・ 写真は途中で寄った公園の遊具で遊んでいる様子です。この間、Blaze には少し待っていてもらいました。



Ⅱ. サンフランシスコ内観光

- ・まず「アラモスクエアパーク」に向かいました。ビルや住宅が並ぶ都会にぽつんと緑の芝生が茂っています。ピクニック場所として活用されているようで、たくさんの人がレジャーシートを広げて昼食をとっていました。中には犬を何匹も放し飼いしている人も。周りの人も特に気にせず、むしろ歓迎していました。日本ではなかなか見られない光景なので新鮮でした。また、サンフランシスコ全体を見渡せるため観光客にも人気があるそうです。
- ・次の目的地へ向かう途中、ホストマザーの（おそらく）妹とその家族と邂逅しました。そこで 10 分程度彼女たちはお喋りしていたのですが、これを聴くだけでも貴重な体験ができました。なぜなら、そこで交わされる会話は普段私たち 2 人向けられるものとはまた違う、本物の「日常会話」だからです。ホストファミリーの英語の速度も私たちに対してのものよりぐっと速く、全部聞き取れたわけではないですが、私たちが普段家や学校で交わしている会話と相違のない自然体の会話を聞くことができました。
- ・そこからロンバートストリートへと足を運びました。日本のいろは坂のように急斜面にぐねぐね道が続いている、有名な観光地です。上から下まで階段を降りて写真を撮りにいきました。車に乗る人たちも皆スマホで動画を撮っていました。
- ・サンフランシスコの街は全体として土地の高低差が大きく、また京都のように直線的な道路が多かったように思います。路上駐車が当たり前の文化も新鮮でした。一つ一つの道路が広いのも納得。またホストマザーに教えてもらいましたが、サンフランシスコの伝統的な家は家同士がゼロ距離で接していて、壁一枚しか挟んでいないそうです。



III. 昼食&観光 @サンフランシスコ・プレシディオ

- ・昼食は海の近くのピクニック場で食べました。道端で購入したオニオンポテトがとても美味しかったです。ただ量は信じられないほど多くみんなで少しずつ食べました。
- ・食後、小さなショップと展示場へ向かいました。そもそも「サンフランシスコ・プレシディオ」はこの地点だけを指す用語ではないようですが、広大な土地に豊かな自然があってとても気持ちの良い場所でした。



IV. 移動⑤（ケーブルカー乗車・市街散策）

- ・ケーブルカーミュージアムでケーブルカーについて学んだ後、実際にケーブルカーに乗って移動しました。しかも、あの「車体の横に立って手すりに掴まりながら乗る」憧れの体験をすることができました。風が心地良かったです。
- ・今まで巡ってきた場所とは打って変わって高層ビルが立ち並ぶ市街地へ。ホストファミリーがサンフランシスコの街並みについてあれこれ説明してくれました。
- ・特に印象深かったのはモスコニーセンターです。会議等のイベントがあるときは何万人もの人が世界中から集まるのだと教えてくれました。



V. 野球観戦 @ORACLE PARK

- ・ホストファミリーがサンフランシスコジャイアンツの大ファンだったこともあり、1日の最後には野球観戦に連れて行ってってくれました。私は日本の球場にも行ったことがなかったため、初めての球場がこのパークとなりました。ちなみに彼らは大谷翔平のアンチだそうです。理由はジャイアンツを負かすから。
- ・本当に初めての連続でした。試合中にはポップコーンやチョコレートパフェを食べました。ジャイアンツ自体は試合に負けてしまいましたが、キスカメラやグッズ配布等、たくさんの思い出ができました。
- ・ホストファザーと2人きりでパフェを買いに行った時、この1週間は楽しかったかと聞かれました。留学生を受け入れるのが今回で初めてだそうで、心配してくれていたようです。私は心から感謝の意を伝えました。なんだか感動して少しうるっときたのを覚えています。



最後の夜に撮った集合写真です。



6 日目

1. 朝

8時ごろ起きて少ししてから朝食を食べた。その日は、ホストブラザーが疲れていたのか準備に時間がかかっていた。その間にホストマザーのカラ，から犬の散歩を頼まれ 15 分ほど歩いた。家に着いてすぐに車に乗って出発した。

それから 40 分ほどしてサンフランシスコの海のような所に着いた。波は、とても穏やかで色は、あまり綺麗では、なかったが景色は、ものすごく綺麗だった。

そこから車に乗り街中を走っていると，カラが「建物と建物の間がほぼない住宅が多いのは、サンフランシスコの伝統的な家だと説明してくれた。」外を見ると確かにほぼ全部の家がそうになっていた。日本の集合住宅より近そうで驚いた。



その後車でサンフランシスコの都内がよく見える公園に行き写真を撮った。行く途中は、ほとんど直線だった。着いてから少し歩いて公園の中に入った、色々な人が写真を撮ったりピクニック、犬の散歩などをしていてとても賑やかだった。景色を見るとものすごくでかいビルしか目に入ってこなくてびっくりした。でも、東京とは、違いビルだけでは、なく沢山の自然に溢れていた。

また移動し次は、ロンバロード街という世界で最も曲がりくねった坂道を見に行った。予想より

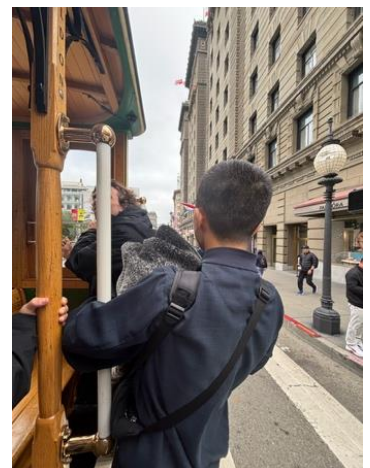


人が多かった。沢山の車がグネグネと坂道を下っていて日本では、見る事が出来ない景色だった。

2.昼，夜

昼は、ゴールデンゲートブリッジ公演に行きフードトラックが沢山ある場所でn肉の入っていないハンバーガーを食べた。野菜しかなかったが新感覚でとても美味しかった。ハンバーガー1個だけでなく2個入っているのがとてもアメリカだなと思った。

そのあとで写真を撮りケーブルカーミュージアムに行った。ケーブルカーの仕組みは、意外と簡

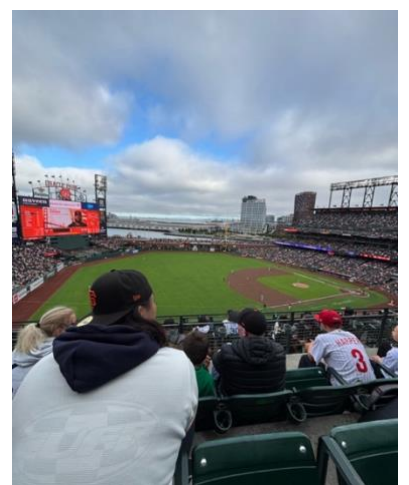
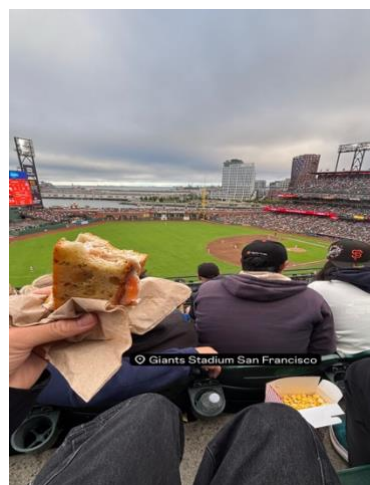


単でわかりやすかった。

そのあとは、ケーブルカーに乗りユニオンスクエアに行った。そこでは、卓球やバスケなど遊べるものが置いてありみんな仲良く遊んでいた。ナイキショップにも行ったが欲しいものは、なかった。

そこから歩いて 30 分くらいの野球場に行き試合を見た。歩いている間も車の通りが多いそして路地が沢山あり歩いている時も何回か通ったが、急に雰囲気が変わるので少しびっくりした。

野球場に近づくと野球グッズを持った人やユニフォームを着た人などファンが増えていき会場着入りギリまでくると人で溢れ返っていた。次々と入場していった。中に入って席に座り試合が始まった、。サンフランシスコジャイアンツ **VS** ニューヨークメッツの試合だ。始まってすぐメッツの 4 番打者が打席に入ると電光掲示板にブーイングしろと出てきてみんなブーイングを始めてびっくりした。カラもめっちゃブーイングしてて面白かった。野球場でカニサンドイッチを食べた。試合終盤ジャイアンツのいいヒットもあった、アイスクリームも食べたが試合には、負けてしまった。



日本では、見られない景色が沢山見れた 1 日だった。

留学6日目レポート

2025年8月29日 加納 瞳

この日は丸一日ホストファミリーと過ごす時間でした。さらに、もう一つのホストファミリーの家に滞在している日本人の友達も加わり、ど合同で一緒に過ごしました。午前中はショッピングモールに行きました。日本では見かけないお店やアメリカらしい大きなお店があり歩いて見てだけでも新鮮でした。ブレスレットやおみやげを買い、アメリカらしい買い物体験をすることができました。午後はホストファミリーいきつけの湖に出かけてボート漕ぎを体験しました。水上から見る景色が日本と違いすぎて息を呑みました。アメリカらしい景色大きな山々などがとても印象的でした。その後はアメリカ発祥のスポーツである『ピククルボール』をホストファミリーに教えてもらいました。テニスと卓球を合わせたようなスポーツで初心者でも楽しめるようなルールだったため夢中になりました。チームに分かれたときやルールを確認する時はホストファミリーと英語を使って声を掛け合いながら盛り上がり、異文化交流を実感できました。6日目はホストファミリーと友達、そして現地の文化に触れながら、1日をととても充実して過ごすことができました。アメリカの自然の中で体を動かす楽しさや、新しいスポーツに挑戦するワクワク感、さらに買い物を通して現地の生活文化を知ることができました。学びと楽しさがどちらも詰まった、忘れられない1日になりました。



6 日目 (7/26)



6 日目はホストマザーと一緒に出かけました。

最初に stoneridge shopping center というところでショッピングをしました。アメリカっぽい可愛い雑貨屋さんがたくさんありました。私はステッカーを買いました。



12 時ごろに、Anthony Chabot Regional Park という公園に向かいました。Lake Chabot という池で、4 人でペダルボートに乗りました。池はとても広くて、眺めが良かったです。ボートは 2 人で漕ぐものでした。ホストマザーに 40 分程で戻ってくるように言われたので、20 分で漕ぐ人を交代しました。ペダルがかなり重くて、操縦も思ったより難しかったので、なかなか思うように進みませんでしたが、とても楽しかったです。漕ぐ人を交代する際に、岸にボートをつけたら、動かなくなってしまうと焦りましたが、なんとか動かすことができて良かったです。池には栈橋がいくつかあり、釣りをしている人もいました。ボートの後は、少し公園を歩きました。犬を連れている人や、誕生日パーティーをしている人がいました。

昼ご飯は、寿司を食べました。日本では見ないような寿司がたくさんあって驚きましたが、どれも美味しかったです。ホストマザーは寿司が好きで、よく食べるそうです。



昼ごはんの後は、Muirwood Community Park という公園に行って、ピックルボールというスポーツをしました。私は中学生のときに少しだけやったことがありましたが、他の3人は初めて聞くスポーツだったそうです。アメリカではとてもメジャーなようで、公園にはコートが6面あり、たくさんの人がピックルボールを楽しんでいました。ホストマザーはピックルボールが1番好きなスポーツらしく、家にメダルがたくさんありました。最初にホストマザーから打ち方のレクチャーを受け、その後ルールを教えてもらいながらゲームをしました。英語でコミュニケーションを取りながらプレーすることもできて、とても楽しかったです。



夕飯は、ホストファザーがスペアリブを作ってくれました。白米によく合う味で、とても美味しかったです。

最後の夜は、2人でそれぞれ手紙を書いて渡しました。私は、5日目の授業で作成したポストカードもプレゼントしました。手紙を読んでもらいながら、ホストファミリーへの感謝や6日間の思い出について話しました。ホストファミリーは私たちに対して、本当の家族のように接してくれたので、帰国が近づいていることを考えるととても寂しく感じました。ホストファミリーも同じように思ってくれていて、とても嬉しかったです。

部屋で荷造りをしていると、ホストマザーが来て、ギフトを渡してくれました。お菓子や、ホストマザーの好きな亀のアクセサリーが入っていました。

本当に優しくて素敵なホストファミリーのおかげで、とても充実した時間を過ごすことができました。いつか日本に来たいと言っていたので、案内をする約束をしました。それまで、今回の経験を活かして、英語でのコミュニケーション能力を磨いておきたいです。

高橋 琴

2025 年 7 月 26 日（6 日目）

篠原 有梨沙

高校生海外研修派遣事業 事後報告書

この日はホストマザー、ホストシスター、そしてホストシスターの友人を含めた 5 人でサンフランシスコに行きました。1 日目にも研修生全員でサンフランシスコを訪れましたが、この日は街の細かい部分までじっくり見ることができました。新しい発見も多く、違った視点から街を楽しめたことがとても印象的でした。

朝、私たちはフェリーに乗って海を渡りサンフランシスコへ向かいました。フェリーではホストマザーが近くにいた人に自然に声をかけていて、アメリカの人たちの距離の近さを感じました。サンフランシスコに着き、土曜の朝にだけ開かれるマーケットに立ち寄りました。地元の人や観光客で賑わい、港町の活気が伝わってきました。少し雨が降っていたのですが、傘をさしている人が全くいなかったのもとても驚きました。



マーケットの近くにある MARKETPLACE で、ハワイ発祥のマラサダを食べました。私はクリームの入っていないシンプルなものを選びましたが、外はカリッと中はふわふわでとても美味しかったです。ホストシスターとその友人は「Ube」という紫芋のクリームの入ったマラサダを食べていて、見た目も鮮やかでした。日本でも知られている食べ物ですが、現地で味わうと特別な感動があります。サンフランシスコでは食べ歩きをしている人

が多く見受けられ、日本との違いを実感しました。



MARKETPLACE から歩いて Pier39 へ向かう途中、たくさんの船が停泊している漁港のような場所を見かけました。ホストマザーは「サンフランシスコは家賃が高く、船で生活している人もいる」と教えてくれました。徒歩でゆっくり街の様子を観察できたことで、知らなかった生活の一面に触れることができました。

Pier39 では友人へのお土産に「taffy」という柔らかいキャンディを購入しました。色とりどりで沢山の種類があり、見ていただけでも楽しかったです。その後はクリスマスグッズを売るお店に入りました。夏であるのにも関わらず、多くの人がオーナメントなどを熱心に見ているのに驚きました。ここには限定の商品もあり、観光客だけでなく地元の人にも人気の場所だと感じました。



Pier39 近くの「Bistro Boudin」というお店で昼食をとりました。名物のクラムチャウダーはパンの器に入っていて温かく、具たくさんでとても美味しかったです。サンドイッチも食べ応えがあり、満足感がありました。お店の外観はカジュアルで落ち着いた雰囲気、充実したランチタイムになりました。



昼食後、徒歩でロンバードストリートへ向かいました。急な坂道を登りながら、美しい街の景色を楽しみました。息は上がりましたが、その分眺めはとても良く、疲れがすつとなくなっていくように感じました。ケーブルカーも走っていて、側面に任天堂の広告が貼ってあり驚きました。街の特徴的な景色に触れることができ、海外、サンフランシスコらしさを感じました。



ロンバードストリートに着くと、街と海の美しい景色が一望できました。偶然、別の家にホームステイしている研修生の男子二人にも会い、話す機会がありました。ホストマザーの話どおり、周囲の家々は非常に高価そうで、生活の厳しさを感じました。



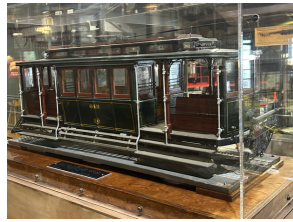
ケーブルカー博物館に向かう途中で、中国語の看板が増え始め、ホストマザーが「ここがサンフランシスコで最も古いチャイナタウンの一つ」だと教えてくれました。多様な文化が共存するこの街の一面を肌で感じられる、とても印象的な場所でした。短時間の滞在でしたが、歩くだけで海外の文化が入り混じる街の様子を感じました。



道路を歩いていると、歩道の縁やマンホールに英語で通りの名前や企業名が彫られていることに気が付きました。通りの文字が歩道の縁石にしっかりと刻まれていて、看板と同じ名前が道路そのものに書かれていました。日本と比べて街中のあちこちに文字情報が多いことに驚きました。日本では道路名の表示は看板のみで、地面に書かれていることはほとんどないので、街の作り方の違いを感じました。



ケーブルカー博物館では、模型や地下で実際に動いているケーブルなどが展示されていました。説明はすべて英語で書かれていましたが、理解できた部分がありとても嬉しく思いました。一方で、理解できなかった部分もあり、もっと英語を勉強しなければならないと感じました。街の歴史と技術に触れることができ、とても興味深かったです。



フェリー乗り場へ戻る為に無人タクシーの「WAYMO」に乗りました。運転手がないのに車線変更やバックなども自動で行っていて驚きました。静かで快適な乗り心地で、未来の交通技術を体験できました。最初は緊張しましたが安心して乗ることができました。最新の技術に触れられて貴重な経験となりました。



家に帰って少し休息をとり、この研修期間最後の夕食を楽しみました。メニューはクスクスとチキンのサラダで、粒状のパスタのような食感が特徴でした。野菜やスパイスが効いていてとても美味しかったです。その後、アイスクリーム屋に行き、ワッフルコーンにコーヒー味のアイスを食べました。サイズはやはり大きく食べ切れるか不安でしたが、コーヒー味のアイスは思っていたよりも軽くすぐ食べ終わってしまいました。



高校生海外研修派遣を終えて

今回の研修では、語学力の向上だけでなく、異文化理解や国際的な視野の広がりを実感することができました。授業やアクティビティを通して英語でのコミュニケーション力を磨くと同時に、ホストファミリーとの日常生活では、現地の暮らしや価値観に直接触れることができました。観光地だけでなく、現地の人々の暮らしや街の雰囲気にも触れられたことで、自分の中の世界の捉え方が広がったと感じています。また、唯一の高校3年生として参加したことで自然と責任感を持つようになり、プログラムを通して大きく成長することができました。この経験は、今後の進路や将来の目標に向かって進むうえで、確かな自信と原動力になると思います。

最後になりますが、今回の研修を通して多くの学びと貴重な経験を得ることができました。温かく迎えてくださったホストファミリー、そしてこの事業に携わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。



ホストファミリーとの1日

6日目はホストマザー、ホストシスター、ホストシスターの友達と5人でサンフランシスコに行きました。7月なのに昼間も20度前後で肌寒く、この日も長袖長ズボンにも関わらず風が冷たく感じられました。ホストマザーがフェリーのチケットを予約してくれていて、ハイワードからサンフランシスコへはフェリーに乗って行きました。初日に訪れたゴールデンゲートブリッジも遠くから眺めることができ、天気は曇りで少し霧がかかっていたのですが、船からの景色も楽しむことができました。サンフランシスコに到着すると、すぐにマーケットのテントが目に入りました。ホストマザー曰く、土曜の朝にしか開いていないマーケットで来てラッキーだったそうです。そこから歩いて20分ほどかけてピア39へ移動し、アシカを見たり、ショッピングを楽しんだりしました。お昼になるとずっと食べたかったクラムチャウダーのお店に連れて行ってもらいました。写真を見ると分かるように、かなりビッグサイズでパンをくり抜いた容器の中にクラムチャウダーが入っている形でした。ピア39のクラムチャウダーは有名らしく、イーストベイ校の先生にもオススメされたので食べることが出来て良かったです！味もシーフード風味で美味しかったです。ピア39を満喫した後は、また徒歩で移動し、30分くらいかけてケーブルカーミュージアムに行きました。サンフランシスコは坂道が多く、傾斜が急なため、かなり移動が大変でした。後からスマホのアプリで確認すると1日で10km弱歩いていました。そのせいか帰りのフェリーは行きよりも静かでした笑。ケーブルカーミュージアムは、こじんまりした趣のある施設で、親子連れや観光客がちらほら入っていました。施設自体は20分ほどで見終えることができましたが、ケーブルカーの歴史や、実際にこのミュージアムの地下の動力を使ってサンフランシスコ内にあるケーブルカーを動かしていることを知ることができ、大変勉強になりました。実寸大のケーブルカーの模型が展示されていて、前で写真を撮ることもできました。ケーブルカーについてかなり詳しく解説した展示もあったので、子供だけでなく、大人も楽しめる施設であると感じました。1日のサンフランシスコ観光を通じて、ホストシスターの友達とも仲良くなることができ、お互いの家族の話やペットの話で盛り上がって楽しかったです。ペットの話をする、言語に関係なく距離感が縮まり仲良くなったように感じました。最後に、サンフランシスコ内を走る、無人運転の車「Waymo」に乗りました。タクシーの役割を果たすWaymoは、スマホで手配でき、完全に自動運転で目的地まで送り届けてくれます。信号や渋滞に巻き込まれても、自動運転技術を基にうまく切り抜けて走行していく様子に驚かされました。とても貴重な経験ができたと思います。長くなりましたが、この1日を通しよりホストファミリーと仲良くなることができました。そのため次の日の別れがとても辛かったです。1週間親身になってお世話やお話をしてくれたホストファミリーには感謝してもしきれません。とても充実した1週間でした！

